



**AEFA** アジア教育友好協会  
Asian Education and Friendship Association

**フレンド会報33号**

ビル名が  
変わりました

〒102-0074  
東京都千代田区九段南2-3-22  
アーバンセカンドビル3F  
TEL:03-6265-6490  
FAX:03-6265-6491



2022年2月1日 発行

AEFAの3層構造理念



## 学校が変わる 村が変わる

カレンの村で……タイの農業プロジェクト

ベトナム クーモ分校と熱中小学校江丹別分校の交流



## 学校が変わる 村が変わる

AEFAの学校建設プロジェクトが、現地の人々の暮らしと心にもたらしたもの

小学校建設のためにAEFAがラオス ブオンナム村を訪れたのは2007年のことでした。ブオンナムはラオス山間部にある貧困度の高い村。当時、村には学校がなく、資材搬入のための道もなく、人々は竹を編んだ壁と草で葺いた屋根の粗末な家に住んでいる状況でした。村人たちは、建設場所の整地のために河から砂利を運んだり、数km離れた森から伐採可能な木を伐りだして製材したりと、力を合わせて校舎を建設したのです。

数年後に同村を訪れたときに驚いたことのひとつは、木造の家屋が増えていたことでした。この変化がなぜ起きたと思いますか？学校建設を通じて村人たちが製材について学び、その技術を生かして自分たちの住居も整えることができるようになったのです。

住居の変化以上に驚かされるのが村人たちの変化です。

学校建設プロジェクトを始めるとき、多くの場合、村人たちはあまり関心がなく積極的な参加もありません。AEFAの学校建設地のひとつであるラオス ハーコーナム村でも、学校建設に向けた村人集会の中心は村長と長老たちでした。しかし、数年後には村人たち、特にお母さんたち・おばあちゃんたちが集会

の中心。次に取り組むべきプロジェクトについて積極的に意見を出す、その熱気に満ちた集会の雰囲気は圧倒されました。

学校がもたらす最も大きな変化のひとつは、村人たちの「自発的な活動」が始まることです。最初は仕方なく学校建設に関わった村人が居たとしても、次第に、自分たち自身が学校を良くしていこうと積極的に立案・企画・活動し始めます。

多くの嬉しい事例が現地NGOから報告されています。先述のハーコーナム村では、村人たちが子どもたちのために寮と教室を増築しました。カトゥア村では保護者たちが中学校の校庭を整備。ドンニャイ村では村人たちがお金を出し合いスクールバスを運営しています。ファイラ村、ナボン村、ヴァンプアイ村では村人たちが校庭の一隅でキャッサバを栽培。これを販売することによって学校に必要な備品を購入し、学習環境の整備向上に役立てています。

この変化の源には、子どもたちの変化があります。学校が建設され、風雨や暑さ、外の物音などを十分に遮ることができる環境が整うことで、子どもたちは勉強に集中することができ、より積極的に学習するようになります。



写真:左上) プオンナム村の風景 (2015年) 左中) 木造の住居 左下) プオンナム村の村人手作りのブランコ 右) プオンナム村の村人集会のようす (2010年)

また、多くの子どもたちが郡レベルの大会にもチャレンジするようになりました。国立大学やカレッジへの入学資格を得た生徒も増えています。

さらに、学校という場を得たことで、これまでにはない新しい教育支援プロジェクトが導入されるようになりました。それによってもたらされた子どもたちの成長を目の当たりにして、村人たちは心を動かされ、教育に関心を持つようになり、自ら子どもたちの未来のために貢献しようと意識が変わるようです。

子どもの人権プログラム(CRP: Child Rights Promotion)が良い例です。CRPは子どものリーダーシップ育成を目指した活動で、村の子どもたちが自信をもって学校生活を送れるように、就学前から共通言語や社会生活、生活習慣などを身につけるさまざまなプログラムを実施しています。

親たちは家での会話から、子どもが活動を通して新しい知識を得ていることに気づきます。話を聞いているうちに、なかなか良いことをやっているな、と思うようになり、やがて子どもたちの活動を見に行くようになり、自分も参加するようになります。

ラオス チャンタイ村では、CRPを開始した当初、子どもたちの

活動を見守っていたのは村の女性幹部だけでしたが、そのうち、村人たちがかぼちゃや豆などを持ち寄るようになり、お母さんたちも参加して、これらの材料を使ったスナックを一緒に作るようになりました。これが、新しい「リトルシェフプロジェクト」(栄養価の高い調理法を学ぶプロジェクト)につながっています。

チャンタイ村に限らず、CRPを実施している村々で同様の変化が見られます。「村のみんながCRPの活動に参加しています。」と語るのはパクペオセット村の村長。「その様子を見ていると、うちの村人たちは本当にCRPの活動が好きなのだと思います。」と語る村長も、村人の変化を感じているようです。

子どもたちの成長は先生たちにとっても大きな心の支えです。ラオス ターサムバン村のヌーニム先生から「多くの児童が郡のスポーツ大会や伝統舞踊大会で入賞を果たしました。それは私にとって大きな誇りです。」、ドンニヤイのアンガリー先生から「生徒の成長を見ると、自分が金メダルをもらったように嬉しい。自分も頑張らねばと、より良い教授法を研究しています。」という喜びの声が寄せられています。スリランカ ホマガマ地区の小中学校で英語を教えているワシュニタ先生は「子どもたちは平等に



写真：左上) ドンチャイ村のスクールバス 左下) ハーコーナム村の村人集会 右上) カトウア中の校庭整備中 右中) キャッサバ 右下) ベトナム「暖かい冬プロジェクト」で贈られた上着を着るベトナムの子どもたち

学ぶ権利を持っているはずなのに、生まれた地域によって学習環境が違う」と胸を痛めていました。AEFAプロジェクトで校舎が整備されたことで「子どもたちがこの村からより広いフィールドで活躍していけるよう、もっといろいろなことを子どもたちに教えていきたい。子どもたちひとりひとりの選択肢を広げるお手伝いをしたい」と意欲を燃やしています。

学校がないということは、子どもの未来と地域の未来が見えないということです。学ぶ機会や進学ができなければ、意欲ある若者は村を出ていってしまいます。学校ができるということは、親世代にはなかった選択肢が子どもたち世代やその先の世代では可能になるということ。それが、村人や先生たちの希望に

なっています。

もともと、学校がすべての問題を解決できるわけではありません。たとえばタイの村の若者にとって、学校を卒業し村を出て都会で暮らすことはまだまだ厳しく難しいものがあります。あきらめて村に戻る若者も少なくありません。しかし、夢破れて村に帰って終わり、ではないのが教育の力です。学びの経験を生かして、新しい農業モデルや森林保護といった村の未来につながる仕事にチャレンジする若者が増えています。(P8参照)

現地だけでなくAEFAにも学校建設が変化をもたらしています。2017年にはベトナムに建設した学校をきっかけに、現地の卒業生・同地域出身の日本在留ベトナムの若者・AEFAによる共同プロジェクトである「暖かい冬プロジェクト」が始まりました。

学校建設は希望の種蒔きのようなもの。AEFAは現地NGOとともに水や養分を与える活動—教育支援プログラムや若者の農業支援、先生への支援など—を続けています。国や地域によってスピードや形はさまざまですが、開花と結実に向けて着実に前進しています。



フシュニタ先生



アングアリー先生



ヌーニム先生



村人が手作りした中学校校舎 ハーコーナム村

### 報告：金子 恵美

学校プロジェクトの始まった頃、2007年のボンナム村の風景を思い出します。村まで車が入れず、川の手前でバイクに乗り換えてようやく到着。日差しを避けて村長さんの家の床下で村人集会が始まったものの、話が聞こえるのは中心の数名だけで、ほかの人々は水たばこを吸っておしゃべりをしていました。英語・ラオス語・現地語と順次通訳するために会話も要領を得ず、人口などの単純な質問にもなかなか答えを得ることができません。後に、それは文字がわからないために記録をとることがなかったからだと知ったのですが…。会話が思うように進まず、理事長がもどかしく感じている気配がありました。

ボンナム村から50キロほどのところに、AEFAプロジェクトによるパチュドン小がすでに建設されていました。「村に学校が欲しいなら、当然そこを見学して話を聞いているよね?」と訊く理事長。しかし、「雨季だから」「ガソリンがないから」という返事に、「やる気あるのか?」といら立ちを隠せません。日本の支援者の想いを託されている立場でいいかげんなことはできないし、この場で村人と直接話してプロジェクトを先に進めたい。けれども、現地には現地の時間の流れ方があり、そもそも学校というものを理解してもらうところからのスタートなのです。

空気が重くなってきたところで、気持ちを切り替えた理事長が「よし!」と声を上げました。「ガソリン代出すから、まずみなさんがパチュドンへ行って、話を聞いてきたらどうだ? やる気あるか?」 それに呼応するように「やります!!!」と答える村長。そして拍手。集会はそこで終わり、心づくしのご馳走とラオラーオ(焼酎)を頂いて帰ったのでした。

ハーコーナム村は、最初に訪問した時は、悪路のせいもあってとても遠く感じました。「初めて通る道は木の1本1本が、どこに行くの?と聞く」とラオスでは言うそうですが、まさにその通りでし

た。村人集会で発言するのは村長と長老たちばかり。しかし数年後の集会の主役は母さん・おばあちゃん方でした。「AEFAが来るならこれを言わなくてはい!」といわんばかりの迫力でぐいぐいと距離感を詰めてきて、次々に積極的な発言が。しかも自分たちの村だけでなく「地域全体のために、中学校の増設が必要」「プロジェクトに参加する準備はできている」と言うのです。その熱量に圧倒され、「これは予算の裏付けなく訪問できないなあ」と思いながら外に出ると、男性陣は木陰でお酒やお茶をのんでまったりしていたのでした。

たくさんの方が関わる学校プロジェクトは、AEFAの活動の原点でもあります。時間はかかりますが、いざ「やる」となったら、力を合わせて実現できることがたくさんあります。学校建設プロジェクトで構築した信頼関係の土壌の上に芽生えた多様なプロジェクトが次々に育って花開きはじめて今、その可能性を改めて実感しています。



写真：2007年ボンナム村 はじめての村人集会



# 学校建設プロジェクト

2022年1月現在



① タイアン分校



② レインボーライブラリー ピンフー小学校



③ プーバチアン中高校 Phase2



④ パンヤーグラ・マハ小学校



⑤ カムリII小学校 及びレインボーライブラリー



⑥ キャンドルライツライブラリー クアセツ校



⑦ ヴァンフー小学校



⑧ キエンティエット小学校



⑨ ニュウ中学校



⑩ ファイルーシ幼稚園



⑪ マウサキヤル第1タミル小中学校



⑫ ホーリー・エンジェルズ女子学校

国名	学校名 支援者（敬称略）	ひとこと
完成	バウ分校 株式会社カナオカ	タンタイン1小学校の分校の1つ。児童数が多く教室不足で、午前と午後の半日制での授業を余儀なくされていました。新たに5教室が完成、全ての学年がそれぞれの教室で学べるようになりました。
	タイアン分校 横浜幸銀信用組合	地域の皆さんの熱意により、コロナ禍の中でも工事進捗は迅速に進み、計画より早く竣工することが出来ました。開校に際しては支援者からギフトが贈られ、共に喜びを分かち合いました。写真①
	クーム分校 レインボーライブラリー トウルントウルック小	クーム分校の新校舎の壁画やモザイクアートは、支援者の皆さんのアイデアやデザインも出し合い共同作業で進めました。トウルントウルック小は、2017年度建設校トウルンタン分校の本校です。
	熱中小学校 江丹別分校 「小学校をつくらうボランティア部」	
	レインボーライブラリー ピンフー小	20周年記念事業として、図書館プロジェクトをご支援いただきました。写真②
	株式会社ブロードウェイ 株式会社ビーワンコーポレーション	
	レインボーライブラリー ハオフー小/タイトウイ小/ フックコン小/ ドントー1小/ ドントー2小/ ヴィンロイ小	
	エルセラーン1%クラブ	本校に、図書館を設置。読書習慣啓蒙活動を行います。本校だけでなく分校とも連携し、地域の子供たち全体に本との出会いや新たな世界を開くきっかけが生まれます。
	ガン中学校 株式会社フォーサイト	コロナで着工が遅れましたが、無事竣工しました。近隣4か村の生徒が学び、中学校修了後は会社による支援校「ナボン中学校」で学べるようになります。
ラオス	プーパチアン中学校 Phase2 谷川 洋	プーパチアン中学校は、「パチアン山」の麓にあり、その名を冠したパチアン郡の基幹校です。老朽化した校舎を建て直し、多くの生徒が学べるようになりました。写真③
	スリランカ	ブワクピティヤ南小学校 カルアガラ・スリ・シッタータ小学校 バンヤグラ・マハ小学校 ワガワッタ・タミル小学校 イルコーウィタ小学校 エルセラーン1%クラブ
		〔改修プロジェクト対象〕旧校舎の基礎構造を残したまま徹底修繕・改修するプロジェクトとして2020年12月に着工しました。度々のロックダウンで工事が遅れましたが、いずれの学校も2021年7月までに無事完成しました。ワガワッタ・タミル小学校はタミル人の学校、ほかの4校はシンハラ人の学校で、西部州ホマガマ地区にあります。写真④
建設中	クーマン分校 一般社団法人 ゼブラ社会貢献支援協会	タインホア省のプロジェクト。7クラス、154名が学んでいますが、教室は3教室しかないため、近隣の複数の村のカルチャーハウスを借りて授業を行っています。4教室新校舎と、トイレ棟が新築されます。
	ベトナム	カムリII小学校およびレインボーライブラリー
		2つの分校を統合し、新しい学校用地に移転、新たに小学校を建設中。隣接した中学校と合わせて、地域の総合的な教育の中心校となります。バクザン省は一時期感染拡大が大変厳しかったこともあり、着工が遅れましたが、挽回すべく建設会社は全力で工事を進めています。写真⑤
	株式会社ニッコトラスト	
	キャンダルライツライブラリー クアセット校 WANG基金 藤原和博	小中一貫校に図書館を設置、読書啓蒙活動を行います。「教育は生命の灯」との思いから、キャンダルライツライブラリーと名づけられ、ベトナムのレインボーライブラリーを参考にしたデザインです。写真⑥
ラオス	ファイラ小学校 増設 エルセラーン1%クラブ	2014年からAEFAプロジェクトでファイラ小学校・中学校の新設、地域の分校群をサポート。校舎増設により、地域の基幹校として、更に教育が充実します。
	ラック28小学校 一家恵理	AEFA初となる ラオス東北部シエンクアン県プロジェクトです。山岳部のため乾季(冬)は大変冷え込みます。約130名のモン族の子供たちが学びます。
計画	ベトナム	チョイモット分校
		狭い3教室の校舎しかない為、高学年4-5年生は川を渡り、5km離れた別の分校に通っています。4教室校舎とトイレ棟を新設し、1-5年生まで全員が健康的で安全に学べるようにします。
		ポマウ分校
		ハノイ市から西北に320kmのソララ省にある学校。ソララ省は全国で3番目に貧困世帯数が多く、ベトナムの中でも経済的困窮度の高い地域。学校は山の斜面にあり、校舎を徹底修繕するプロジェクトです。
		ヴァンフー小学校
		本校は15クラスに対して8教室しかないためやむなく二部制で授業が行われており、十分な教育が出来ていません。また、2022年度から政府の方針として分校(老朽化して危険な校舎)を本校に統合していく計画があります。写真⑦
		キエンティエット小学校
		初のレインボーライブラリー図書館(2019年度)がある小学校。本校は、地域の初等教育の拠点校として分校を統合、2024年には寄宿制の学校とする計画があります。写真⑧
		ニュー中学校
		もともと小学校だった建物を、中学校として活用しています。2棟ある校舎のうち1棟は壁も床も無く、雨漏りのする古い仮設校舎です。強風や大雨の後には、村人たちが修理をしながら使っています。写真⑨
ラオス	ファイルーシ幼稚園	小学校と同じ敷地内にある幼稚園は仮設で狭く、満員状態です。保護者の「子どもを通わせたい」という要望は高く、新しい園舎を整備することでより多くの幼児が通えるようになります。写真⑩
	ナムサイター小学校	5年以上、支援を待っている候補校です。メコン川の近くに立地、毎年のように水害が起きているため、新たな学校用地として1ヘクタールの土地を準備済です。村と学校の協力関係がとて強いです。
	ゲンタワン小学校	サラワン県の主流、セドン川のすぐ近くに立地、近年の気候変動による洪水被害を毎年のように受け、村全体の高台への移転が計画されています。子供たちの安全のため、新たな土地へ学校も移転します。
スリランカ	マウサヤル第1タミル小中学校	中部州の紅茶プランテーション内にある学校です。3つの農園に住むエステート・タミル人(イギリス統治時代に紅茶農園の労働者としてインドから連れてこられたタミル人の子孫)の子どもたちが勉強しています。教室数が不足して一部の児童生徒は外で授業を受けています。写真⑪
	ホーリー・エンジェルズ女子学校	海沿いの貧しい漁村にあるカソリック系の女子校。2004年のスマトラ島沖地震による大津波で倒壊した学校の代わりに、保護者が地域の教会に嘆願して建てられました。現在は高校生まで在籍していますが、教室が足りず、3教室の増設を希望しています。写真⑫
	カヴァンティサブラ・マハー小中学校	〔改修プロジェクト対象〕中学生が使用している校舎の傷みがひどく、壁が崩れかけ、床がひび割れ、屋根は雨漏りしています。先生、生徒たちは不安を抱きながら学校生活を送っており、緊急の修理が必要です。

# カレンの村で……チェンマイ県オムゴイ郡ヤンピアン行政区 タイ 農業プロジェクト

カレン族の村は山岳地にあり、丁寧に耕作された段々畑が広がっています。お米はあまい風味があり、とてもおいしいです。“山のお米”と呼ばれ街でも人気が高いのですが、流通・販売ルートが確立されていないため、地元での消費が主となっています。以前はケシが違法栽培されていた地域でもありますが、タイ政府による強力な麻薬撲滅運動が行われ、キャベツやとうもろこしやトマトなどの換金作物に転換されるようになりました。一方で、単一栽培作物は市場価格に左右されるため、むしろ借金を抱える人も。伝統的野菜を消滅させかねず、生物多様性が失われる原因にもなっています。また、近年の気候変動も農業に大きな影響を与えています。

カレン族の方々は、故郷をとっても大事にしている、街へ出て働いても40～50代になると故郷の村へ戻るそうです。また近年では、学業や就職のため都市部に出たものの、馴染めない等様々な理由により村に戻ってくる若者が増えています。そういった若者はより広い視野と経験を持ち、故郷の伝統や文化を守りながら発展に貢献したいと考えています。

AEFAは、同地域で2005年より学校建設事業を推進してきました。現在は、現地状況の変化を受け、若者たちが地元で生活していけるよう、農業を中心としたプロジェクトを支援しています。

若手農家15村約100人のメンバーが伝統的手織物・はちみつ・有機米・有機コーヒー・循環型農業(アボカド・パッションフルーツ等の栽培)のグループをつくり、SNSを活用したネットワー



写真：右上) 製品のはちみつ 左下) 村長さんの畑

クでお互いの知識や情報を交換し合い、協働しています。活動を通して、農業以外の仕事のためのキャパビル(能力向上)にも繋がっています。

多様な作物を作ることは、コロナ禍の今では特に食の安全保障にもなり、改めてその重要性が認識されています。

2020年春の感染拡大時には、若手農家らがチェンマイ市の生活困窮者へ米やイモ・野菜をラックスタイ財団を通して寄付したり、地元のお寺で食事を無償でふるまうなど慈善活動を行いました。また、アルコールジェルを作ったりマスクを配ったり、少数民族の言葉で正確な情報や感染対策を伝える活動にも協力しました。

2019年12月に開始した本プロジェクトは、コロナ禍により2022年12月末まで期間延長しています。今後も、感染状況を見ながらコーディネーションセンター(協同作業場・集会所)やコーヒー



写真：左上) コーヒーの苗木 左下) お米を搗く 中上) 作物を見せてくれるソップラーン村の村長夫妻 中下) マカダミアナッツの苗木 右上) 果密 右下) コロナ前はイベントで農作物や手織布を販売





新型コロナを村に持ち込まないように、村人の自警団と協力して感染対策にあたった

●ラックスタイ財団レポート(2020年度)より:

村人は、感染への不安・恐怖や、出稼ぎに行けない・作物を売れないため収入が減る事への不安にさいなまれたが、農業を営み、また森から食料採取ができるため、食糧危機は起きていない。

循環型農業は単に自給用農業と多くの村人に考えられていたが、収入向上にもつながることが理解された。、ファイコン村とファイトンルアン村ではパッションフルーツとアボカドとコーヒーを栽培、多様な作物を植えることは負債を作らず、また市場流通システムの奴隷にならず、収入を得ることが出来た。

ショップ(アンテナショップとして、生産品を販売)の建設や各グループの活動を進め、インターネットで通信販売の仕組みを構築するなどマーケティングも工夫していきます。

# カレンのすてき

AEFA発 少数民族のくらし紹介



タイの北部チェンマイ県の山岳地帯に多く居住するカレン族の人々は、誠実であることを何よりも尊重しています。民族衣装を作る伝統の手織り布には表と裏がなく、それも誠実さのあらわれなのだと思います。

この布は、村人たちの普段着にも、学校の制服にも使用されています。未婚女子は白、結婚すると赤や黒の色のついた布を着用します。貝やビーズ刺繍のように見えるのは草の種で、織りあがった布に細かくつけていく作業は、お母さんのお手伝いで女の子たちがするのだそうです。仲良くなった子が「細かくて小さくて大変だからお手伝いイヤなの〜!」と話してくれて、“不器用さん”同士の親近感を覚えました。

素朴な風合いとシンプルなデザインがカレンの布の持ち味ですが、若い世代の織手さんはインターネットを活用して都市の流行をチェック。モダンなデザインを積極的に取り入れています。



# ベトナム クーモ分校と 熱中小学校江丹別分校の交流

熱中小学校とは「もういちど、7歳の目で世界を…」をコンセプトに、大人が学ぶ学校です。北海道旭川市にある江丹別分校では、AEFA理事長 谷川の授業をきっかけに、「部活動」として「小学校をつくろうボランティア部」(小ボラ部)が発足しました。部員の方を中心に多くの方々が賛同。チャリティコンサートの開催、チャリティ・カレンダーやコルクアートの販売等を通じて資金を集め、ベトナムに小学校(クーモ分校)と図書館(トゥレントウルク小)を建設支援しています。

クーモ分校新校舎の壁画と記念碑のモザイクアート制作にあたっては、支援者の皆さんもアイデアやデザインを出し、現地と共同で作業を進めました。壁画のモチーフは、日本の子どもたちが描いた「自分たちが住んでいるところがどんなところか紹介する絵」をもとに、ベトナムNGO・CSDがデザイン、クーモ分校の先生方が描きました。釣りをしたりピクニックをしたり、楽しく遊ぶ風景が見事にローカライズされ、川にはベトナムの国の花である蓮が咲いています。

●小ボラ部部長 清水健太郎さんからのメール(抜粋)  
ベトナムの土はラテライト(赤色の土壌)が多く、北部のサパなどを除いては河川の多くは赤褐色の濁りがあり、日本のような青く透き通った清流の溪相にはまずお目にかかれない。青い水といえば海や湖。従い、絵の構図もそのような感じになっている。(一方で部員の息子さんが描かれた絵は清流。)というのを拝見し、地理的な前提でモチーフも変わるんだなぁと感心しました。



左) 日本の子どもによるモチーフ画 右) クーモ分校校舎の壁画



ミーゴダ仏教小学校5年生  
インドゥミニさんの作品



ひらがなで「ありがとう」という文字とともに描かれているのは、日本の無償資金協力によって建設された「スリ・ジャヤワルダナプラ総合病院」(1983年)、「新日本スリランカ友好橋」(2000年)、そして2021年にAEFAプロジェクトで改築された自分たちの学校です。

また、左側に書かれている文言は、スリランカの故ジャヤワルダナ元大統領が1951年のサンフランシスコ講和会議でセイロン(スリランカ)代表として演説したときに仏陀の言葉を引用して唱えたものです。

「憎悪は憎悪によって止むことなく、ただ愛によって止む(Hatred ceased not by hatred, but by love)」

当時、敗戦した日本に対して戦勝国が厳しい制裁措置を求めている中、ジャヤワルダナ元大統領は対日賠償請求権の放棄を明らかにするとともに、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴える演説を行いました。この演説が戦勝国の心を動かし、戦後に日本が国際社会に復帰できる道へとつながったのです。スリランカの子どもたちは、こうした日本との絆を学校でしっかりと教わっています。

この絵に描かれた「ありがとう」の言葉は、双方向の感謝の気持ちを表しています。

# ソロプチミスト日本財団 「千 嘉代子賞」受賞

公益財団法人ソロプチミスト日本財団が主催する、国際協力や児童の健全な育成活動等を顕彰する同賞を、AEFA理事長の谷川が受賞しました。これは、ラオスプロジェクトへの継続支援をいただいている国際ソロプチミスト伊勢原(SI伊勢原)の推薦によるもので、同クラブ30周年記念事業として「ラオス:子供のリーダーシップ育成プログラム」にご寄附いただきました。



授賞式の様子 2021年11月2日 京都にて



左から SI 伊勢原・亀井様 谷川 相原様

## ●SI 伊勢原 相原薫様より

コロナ禍で世の中の全てが閉塞され、出口のない時間を皆が過ごしている中、AEFAと谷川理事長の一隅を照らす活動が広く知られることが叶い、正に一條の光がさした思いです。AEFAの地道な活動がアジアの子ども達を支え、国を創る子ども達へと育っていくと信じています。コロナが様々な事柄を奪いましたが、逆に本当に大切な物が何かも気付かせてくれたと思います。活動方法は色々変化しボランティアの在り方自体も見直しの時です。どうぞ今後も継続され、更なる進展を祈念しております。

## リレートーク Why AEFA?

橘川 幸夫 →→→

## 坪井 未来子

ベトナム語通訳・翻訳者 AEFA 理事

ベトナム語通訳をしながら日越を往復。ベトナム居住歴は10年以上。山形県在住。著書・訳書「アジア語楽紀行―旅するベトナム語」(NHK 出版)、「ベトナムの歴史―ベトナム中学校歴史教科書」(明石書店)



日本の幼稚園で「ベトナム」を伝える (右端)

次のバトン: 浅田一憲さん  
(株式会社ハウディ取締役会長)

執筆依頼を受けたとき、まず浮かんだのは「Why me?」ひとつだけあるとすれば、ふた昔近く前の設立の瞬間から今までずっとかかわっていることかもしれません。ベトナムでの、旧ソ連製ジープ、バイク、果ては「おんぶ」まで、あらゆる「乗り物」にお世話になって訪問先までたどり着いた、数々の珍道中が懐かしく思い出されます。山岳地域では、職員室兼住居のような小屋に暮らして分校を守っている先生方の、子どもたちや教育に対するまっすぐな言葉や思いに感銘を受けることもありました。当時は皆が手さぐりで、どのような学校建設、教育支援ができるのか、体当たりで基盤をつくっていたように思います。今思えば、「子どもたちにより良い学びを」と奮闘していた私たちこそが、多くのことを学ばせていただいた「生徒」だったのかもしれない。

その後、仕事、出産、引っ越しなどがありました。AEFAはいつもそこにありました。ホーチミンでも、ダナンでも、ハノイでも。北九州市では、幼稚園の子どもたちにベトナムという国や文化、子どもたちについて伝えました。山形在住の今は、在山形ベトナム人協会(TVAYamagata)に日本語ボランティアとして加わったことをきっかけに、日本に暮らす技能実習生をはじめとしたベトナムの方々にお話を伺う機会を設けることができました。これは「AEFAの新しい窓」として発展していきそうです。いづどこにいても、誰かと緩やかにつながれば何かができる、何かが変わる、と思わせてくれるAEFAとのご縁、そしてかかわっている皆さんの懐の深さには本当に感謝しています。

時空を移ろいながら最近強く感じるのは、「支援する側」「される側」という単純な関係を越え、皆が同じ目線で、互いに学び合い、支え合う必要があるのではないか、ということです。これまで皆で築いてきた緩やかなつながりの助けを借りながら、同じ目線で対話し、理解を深め、共感し合えるような機会を少しずつ増やしていけたらいいなと思っています。



- 7月14日 AEFA 理事会・2021 年度事業進捗及び現状の共有
- 8月~10月 エルセラーン社フェスティバルにて、下記8校の学校・図書館の開校・開所式を開催 (谷川、菊岡)  
スリランカ プワクピティヤ南小学校・ベトナム タイウイ小学校クオン分校・ベトナム ツークアン小学校図書館 (以上8月7日) スリランカ スリ・シッタールタ小学校・ベトナム ミンクアン小学校図書館・ベトナム ジンタイ小学校図書館 (以上8月21日) ラオス チェンサイ小学校・ベトナム ミンフー小学校図書館 (以上10月16日)
- 10月22日 ラオス パートナー NGO ACD との Zoom 打合せ
- 10月28日 ベトナム パートナー NGO CSD とキムソンカシトン校とをつなぎ、今後のプロジェクトについて打合せ
- 11月2日 理事長 谷川が国際ソロプチミスト日本財団「千嘉代子」受賞 京都で贈呈式が開催された
- 11月5日 AEFA 関西支部と Zoom 打合せ
- 11月11日 NPO 法人 AVENUE オンライン勉強会「ベトナム少数民族の村における学校づくり、教育支援」にて講師 (佐川・金子)
- 11月19日 スリランカ パートナー ダヤシリ氏と Zoom 新規候補校について打合せ
- 11月21日 理事長 谷川が 熱中小学校丸森復興分校 にて講演
- 11月24日 ベトナム スアンバン小学校レインボーライブラリー クロージン
- グセレモニーをオンラインで開催。ご支援者と子どもたちとの交流を行った
- 11月30日 アジアの子どもたちに学校をつくる議員の会 訪問。ベトナム候補校を提案
- 12月1日 AEFA 理事会 2021 年度事業報告、決算見込み、2022 年度予算
- 12月8日 ソロプチミスト伊勢原 来所。支援金贈呈式
- 12月10日 株式会社初田製作所 来所 学校プロジェクトの打合せ
- 12月11・18日 エルセラーン ウインターフェスティバルにてスリランカの学校開校式、ベトナム図書館の開所式開催。(谷川、菊岡) スリランカ パンヤークラ・マハ小学校・ワガワッタ・タミル小学校・ベトナム ハオフー小学校図書館・タイウイ小学校図書館
- 12月17日 新東京歯科衛生士学校 国内国際性講座 (金子)
- 12月14日 スリランカ パートナー ダヤシリ氏・マニーシャさんと Zoom 打合せ
- 12月21日 ご支援者との AEFA オンラインの集い (亀井)
- 12月22日 株式会社近江兄弟社の皆様来所 ニコニコ募金贈呈式
- 12月24日 顧問 菊地先生来所、出前授業について打合せ  
株式会社リアンコーポレーションの皆様来所 支援金贈呈式

## 学校の本質

Tanikawa's Notebook 理事長・谷川洋



2004 年、パチュドン小学校に到着して、その粗末さにびっくりした。屋根はボロボロ、雨が降れば間違いなく雨漏りがするだろう。入口や窓もひどく傷んでいた。入口のドアはちゃんと閉まらない。窓枠も朽ちていて、これでは雨も風も吹き込んでくるだろう。こんなにひどい校舎で勉強させられているのか。第一印象は「かわいそうに……」という、哀れみであった。

しかしその一方で感動していた。これこそが心のこもった学校だ。村人たちの血と汗と、子どもを思う気持ちがこもった学校だ。これこそが、心のつながりを生んできた学校だ。親が子どもたちを預けて安心できる学校だ。手触り感が残る学校だ。たとえボロボロに傷んでいても、親心、先生たちの情熱、子どもたちの思い出が刻みこまれている学校なのだ。そう思うと、涙が出そうになった。

訪問した日はあいにく週末だったので、学校では子どもたちの顔を

2006 年に再訪したパチュドン村。ナムゲルン先生 (下) と子どもたち



見ることはできなかった。しかしそこで教えている先生のナムゲルンさんに会え、彼が住み込んでいる掘立小屋に案内してもらった。小さな小屋だ。そこには数人の子どもがいた。ナムゲルン先生は、川向うから学校に通う子どもたちと一緒に住んで、教師の仕事をしながら面倒を見ているのだ。まさに24時間働いている。情熱の塊であった。

私はもう、心の底から感動した。学校と呼ばれるものの本質がそこにはあった。

アジア各地で学校建設プロジェクトを進め、その数300を超えるようになった今でも、時折あのパチュドンのボロボロの校舎や、ナムゲルン先生と子どもたちの笑顔を思い出す。

AEFA Web & SNS

Web Site

Facebook

Instagram

私たちは各国のパートナーNGOと手を携えて活動しています。

- ベトナム：Research & Communication Centre for Sustainable Development (CSD)  
Vietnam Assistance for the Handicapped (VNAH)  
Saigon Children's Charity (SCC)
- ラオス：Association for Community Development (ACD)
- タイ：Raks Thai Foundation (CARE Thailand)
- スリランカ：Rotary Club of Colombo (RCC)

